

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2991000015		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループ香芝 (青空)		
所在地	奈良県香芝市五位堂一丁目341番地1		
自己評価作成日	平成24年1月30日	評価結果市町村受理日	平成24年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2991000015&amp;SCD=320&amp;PCD=29">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2991000015&amp;SCD=320&amp;PCD=29</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年2月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>入居者様が楽しい雰囲気の中、日々の生活が送れることを意識し支援させて頂いております。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>理念に「すべては笑顔のために」と謳い、5つのケア目標を掲げ、職員は利用者は年長者であり、尊厳を持って敬語を用いて接し、理念や目標に沿ったケアに取り組んでいます。管理者が交代し新体制となって日が浅い中、管理者は新たに様々な取り組みを始めており、徐々に職員にも浸透し、職員の意識にも変化が表れています。利用者本位のケアの実践を徹底し、職員が利用者を尊重した排泄の支援を続けた結果、利用者に安心感を感じてもらうことが出来落ち着かれるなど、利用者の生活の改善にも繋がっています。また、保育園児との交流を通して、保護者向けや園児向けに、それぞれに認知症や年を取ることはどのようなことなのかを話す機会を得て、認知症への理解と地域の方にホームを知って貰う取り組みを行っています。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の骨子の説明を全職員に実施し、朝礼時に理念の唱和を行っております。	ホーム独自の理念及び5つのケア目標を掲げ、職員は名札と一緒に常時携帯し、毎朝理念と目標の1つを唱和して意識付けしています。利用者に笑顔が見られているか、体調は良いかなど、職員は個々に理念や目標を意識し、振り返りながら支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の加入・行事の時など町会様に参加の声掛けをさせていただいております。	自治会に加入し、地域の夏祭りや掃除などに利用者と一緒に参加しています。散歩時に地域の方と挨拶を交したり、野菜の差し入れを貰う事もあります。また、保育園児との交流や大正琴やハーモニカなどの地域のボランティアの来訪もあり、交流の機会を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置やクリーンデイにはスタッフと自立されている方と共に少しずつ地域の方々との交流を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加を行政や自治会にお願いしています。	会議は家族や市職員、自治会長や包括支援センター職員などに声掛けを行い2ヶ月毎に開催しています。ホームの活動報告や行事、事故急変などについて話し合い、防災訓練の見学希望などの意見が出され、運営に反映させています。今後は民生委員や地域の方にも参加が得られるよう依頼を予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と常に連絡をとり、報告連絡相談をさせていただいております。	市担当者の運営推進会議への参加があり、ホームへの理解と協力を得ています。事故報告や入居相談、家族からの要望・苦情についてなど、気軽に相談したり助言を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止のため玄関のみ施錠させて頂いております。	職員は身体拘束についての社内研修に参加し、伝達研修や回覧で周知しています。管理者は日常的に言葉の抑制も含めて、具体例を挙げて分かり易く職員に伝え、職員の理解も深まりつつあり、利用者が出来るだけ自由に過ごしてもらえよう支援した結果落ち着かれるなどの変化が見られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、勉強会を実施しております。また、虐待の起こらない現場作りに努めています。		

愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は社内研修等で学ぶ機会があります。一般スタッフへの周知徹底を行い支援につなげていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御見学の際にはご不明な点やご不安な点を御伺いしております。また、気がかりな点があればいつでもお電話でご説明させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご本人様や御家族さまのご意見をおききしております。スタッフの声もカンファレンスを開くことにより運営に反映させております。	家族の意見は行事や来訪の際に聞いたり、利用者アンケートの実施や毎月の請求書やホーム新聞などの送付時にも、意見が無いかを聞いています。ホーム内の掃除についてや湯たんぽの使用など、出された意見は速やかに改善し対応しています。意見によっては法人や行政にも相談しながら改善に向けて取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議職員個々に発言を求め個人的に話を聞いています。	日々の申し送り時や各種会議、法人や管理者が行う個人面談などで随時意見を聞いています。出された意見やアイデアは「すぐにやってみよう」を合言葉に、業務や運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や努力している職員に感謝の言葉を忘れずに声がけをさせて頂いております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議、勉強会を行いスキルアップを心がけております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社のグループホームとは不定期に連絡をとっておりますがスタッフ間の交流には至っておりません。		

愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接的なかかわり、間接的なかかわりを持ち、ご利用者様の思いを理解出来る様努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所されたときは日常きなお話をさせて頂き不安や疑問を解決出来よう努めさせて頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様の要望には出来る限りの対応をさせて頂き、入居者様には安らぎのある生活を支援させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活支援者であるとの認識を持ち行動しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡を取り合い良い支援につなげられるようご相談をさせて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事参加の声かけを行い少しでも関係や交流を持って頂ける様支援させて頂いております。また、買い物やドライブ等で馴染みの場所へ出かけております。	利用者がよく行っていた喫茶店やスーパーなどへ一緒に行ったり、懐かしい場所へのドライブや地域のどんと焼きなどへ行っています。家族の協力を得て正月を自宅で過ごされる方、年賀状を書かれる方の支援を行い、関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の少ない方もいらっしゃるのでスタッフの声かけや座席の考慮等がかかわりを持って頂ける様努めさせて頂いております。		

愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されるときには今後の関わりに関してお話をさせて頂いております。他施設へいらっしゃる方には情報提供をさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向は職員とのかかわりの中から汲み取ったり、御家族様との面談の際にききとらせていただいております。職員の思いは連絡帳に記載され検討しアセスメントに繋げています。	入居時に本人や家族から、生活歴や興味を持っている事、過去に好きだった事などの情報を得て、意向を把握しています。把握が困難な場合は日ごろの利用者の様子や表情、楽しそうな事、利用者の特徴などを見ながら、職員で意見を出し合い、総合的に判断して思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には必ず丁寧にアセスメントしサービスを利用して頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を知ることが生活のリズムに繋がる為、情報収集に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に状態を御家族様に伝え担当者会議等を開きケアに繋げるよう心掛けています。	利用者や家族の意見を取り入れた介護計画を作成しています。担当職員が毎週モニタリングを行い、3ヶ月毎に全職員から出された意見をケアマネジャーが総合してモニタリングを実施し、利用者や家族の意見を取り入れて介護計画を見直しています。必要時看護師の意見を聞き反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の状態に合わせケアプラン以外にも項目を増やし情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援の提案を見つけるためにユニット会議やナース等出来るだけ多くの意見を取り入れています。		

愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園や保育園との交流を図ったり、クリスマスには近隣の教会から聖歌隊による参加をいただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には相談してかかりつけ医を決めていただいております。入居前のかかりつけ医を継続して利用する事も可能である事を伝えていきます。提携医とは夜間休日も含め24時間連絡可能です。	これまでのかかりつけ医を継続して貰い、個々の利用者に合わせて往診があります。受診の際には利用者の情報を伝えて家族が対応し、必要時には職員が支援することもあります。週に2度は協力医がどちらかのユニットへ往診があり、また、訪問歯科を受けたり日々の健康管理は週2回看護師が行い、健康管理に勤めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師による勤務時には体調の変化を相談しております。看護師不在時は電話等で適宜指示を受け適切な対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には御家族様と同時に医療機関からの説明を受けております。退院時は退院前カンファレンスを開いて退院後の支援をサポートさせて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護職員では医療行為が行えない事は入居時に説明させていただいております。他施設への申し込みの提案もさせていただいております。	入居時に看取り指針について説明し、ホームでは医療行為が出来ず、生活の支援が主となる事などを伝えていきます。利用者や家族の意向があり、条件が整えば最期まで支援していきたいと考えています。現在対象者があり、医師と連携を図りながら、他の施設への移行も含めて家族や関係者と方向性が統一できるように話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	吸引ノズルの使用方法の徹底を研修しております。救急持ち出しファイルの整備をしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導をうけて避難訓練を実施いたしております。その際消火器や非常通報装置を使って実施しております。運営推進会議でも説明や協力を依頼したり、近隣民家への協力を依頼しております。	年2回昼夜を想定し、消防の指導を受けて利用者も一緒に火災や災害時の避難訓練を実施しています。訓練は事前に近隣住民へ挨拶や声掛けを行い、近隣の保育園児と一緒に実施しています。次回より市の担当者が参加予定となっています。	

愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助の際は細心の注意を払いプライバシーの確保に努めています。	管理者は利用者は年長者であり、尊厳を持って敬語や丁寧語を用いて接するように伝えていきます。家族の希望で名前を呼ぶ方以外は、きちんと名字で呼ぶことや入室時のノックや声掛けなどを徹底し、その理由についても職員に分かり易く説明しています。不適切な対応があればその都度注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の個性を重視し自己決定出来る様支援させて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは業務にながされる事無く利用者様を優先し行動するよう話し合っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や化粧品の自己決定を重視し支援させて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人の管理栄養士の立てたメニューにより調理専門の職員が調理しています。下ごしらえや後片付けは利用者様と一緒にしております。おやつに利用者と共にたこ焼きを作ったりします。	食材は法人が立てた献立に合わせて利用者と同じ物に行き、利用者の好みに合わせて献立を変更する事もあります。下ごしらえや配膳、洗濯など利用者と一緒にいき、巻きずしを巻いたり、たこ焼き作りなどを楽しんで貰っています。希望を聞いて寿司やラーメンなどの外食も支援しています。車椅子の方も状態に合わせて食べやすいよう椅子に座り替えて貰っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、キザミ食やトロミ等をつけ提供させて頂いております。1日1500カロリーで塩分等も調整させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施。個人別の程度に応じてスポンジや歯磨きブラシ等使用させて頂いております。		

愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し日中は紙パンツから布パンツに変更しております。声掛けと誘導でトイレでの排泄を支援させて頂いております。夜間は眠りを妨げないようオムツや尿取りパットを利用させて頂いております。	利用者に合わせ、座位が保てる方はトイレでの排泄を支援しています。安易に紙パンツやパットを使用せず、布パンツで生活できるよう支援しています。頻回にトイレに行く利用者に記録する共に要望通りに支援を続け、利用者はいつでも行ける安心感から間隔が長くなった方もあり、利用者の意思を尊重し、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事や、きなこ牛乳。ヨーグルト等排便に有効と考えられる食物を積極的にとり入れております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の意志確認をしご入浴いただいております。意思確認の困難なかたについては定期的にご入浴いただいております。	入浴は午後から週に3～4日を目途に支援し、一人ずつ湯を入れ替え、希望があれば毎日の入浴も可能です。夜間の入浴希望についても職員のシフトを工夫しながら支援しています。ゆずや沐浴剤を入れ、色や香りを楽しむこともあります。入浴を拒む方には、時間を変えたり銭湯を利用するなど、工夫しながら入って貰えるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調にあわせ日中休息をとって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しましては「変化のあるたびに申し送り」と、お薬情報を確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の希望や生活歴を考慮し趣味の作物作りや編み物等楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩に出かけたり地域での催し物には参加出来るよう町会様と連携を図っております。	天気が良ければ日々近隣を散歩しています。2ヶ月毎に季節の梅や桜の花見、大阪城や橿原神宮などの名所旧跡、温泉などへ出かけています。家族との通院の際に、外食や自宅に戻ったりされる方もあります。また、寒い日でも庭や駐車場で外気浴を行い、寒さを感じて貰ったり、気分転換をして貰っています。	



愛の家グループホーム香芝（青空）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理となっております。ご利用者様ご本人の買い物にはご自身で支払いをして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には電話も自由に御使い頂ける様支援させて頂いております。郵便物についても取次ぎをさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁には季節感のある貼り絵や、個人作品等を展示しております。	リビングは利用者と一緒に飾った雛人形や行事の写真、利用者が活けた季節の花などが飾られ、季節感にも配慮しています。利用者は広い平屋建てのホーム内でユニット間を自由に行き来できるようにし、利用者同士の交流が生まれています。ホーム内は過ごしやすいソファの配置を工夫したり、温度や湿度にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では孤独感を感じる事のないよう入居者様同士の会話やスタッフも仲間に入り雰囲気を楽しんでいただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では入居前にご自宅で使用されていた家具等をおいて頂き安心できる空間を心掛けております。	居室は洋室となっておりますが、希望により床に布団で休むことも可能です。床にカーペットを敷いたり、使い慣れた鏡台や化粧品、炬燵やテレビ、大切な写真などを持参し、その人らしい部屋作りがなされています。部屋で編み物をして過ごしたり新聞を読む方もあり、ゆっくり寛げるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂けるよう出来る事や分かること等を増やせるように支援させて頂いております。		